

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和 5 年 6 月 23 日

一 宮 市 長 殿



提出者

住 所 愛知県名古屋市中錦二丁目20番15号

氏 名 鹿島建設株式会社 中部支店 安全環境部

部 長 関 口 武 生

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 052-307-5111

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	鹿島建設株式会社 中部支店 一宮市内各現場
事業場の所在地	愛知県一宮市内各現場
計画期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	06 総合工事業
② 事業の規模	1326億円
③ 従業員数	609 人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	「別紙①産業廃棄物の一連の処理の工程」のとおり

## 産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

「別紙 ② 管理体制図」のとおり

## 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①・ 現状	【前年度（令和4年度）実績】（別紙③のとおり）		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	（これまでに実施した取組） ・ 鋼製足場材の使用、設備機器等の梱包材の削減（メーカーへの協力要請） ・ 工法変更（仮設・本設）、設計に組込まれていない場合は以下の事項について発注者と協議 PC化、ユニット化、ラス型枠、床のデッキプレート等		
②計画	【目標】（別紙④のとおり）		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	（今後実施する予定の取組） 前年度の取り組みを継続		

## 産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 施工段階で現場状況に応じて以下を実施 コンガラ、アスガラ、木くず、金属くず、ダンボール、石膏ボード ALC、岩綿吸音板、廃蛍光管、その他
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 前年度の取り組みを継続

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①・ 現状	【前年度（令和4年度）実績】（別紙③のとおり）	
	産業廃棄物の種類	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	
	（これまでに実施した取組） 解体工事から発生したコンガラを現場内で破碎処理し、路盤材等に積極的に利用する。	
②計画	【目標】（別紙④のとおり）	
	産業廃棄物の種類	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	
	（今後実施する予定の取組） 前年度の取り組みを継続	

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①・ 現状	【前年度（令和4年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	_____
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	_____
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	_____
（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	_____
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	_____
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	_____
（今後実施する予定の取組） _____		

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①・ 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	_____	_____
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	_____	_____
	(これまでに実施した取組) _____		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	_____	_____
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	_____	_____
	(今後実施する予定の取組) _____		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

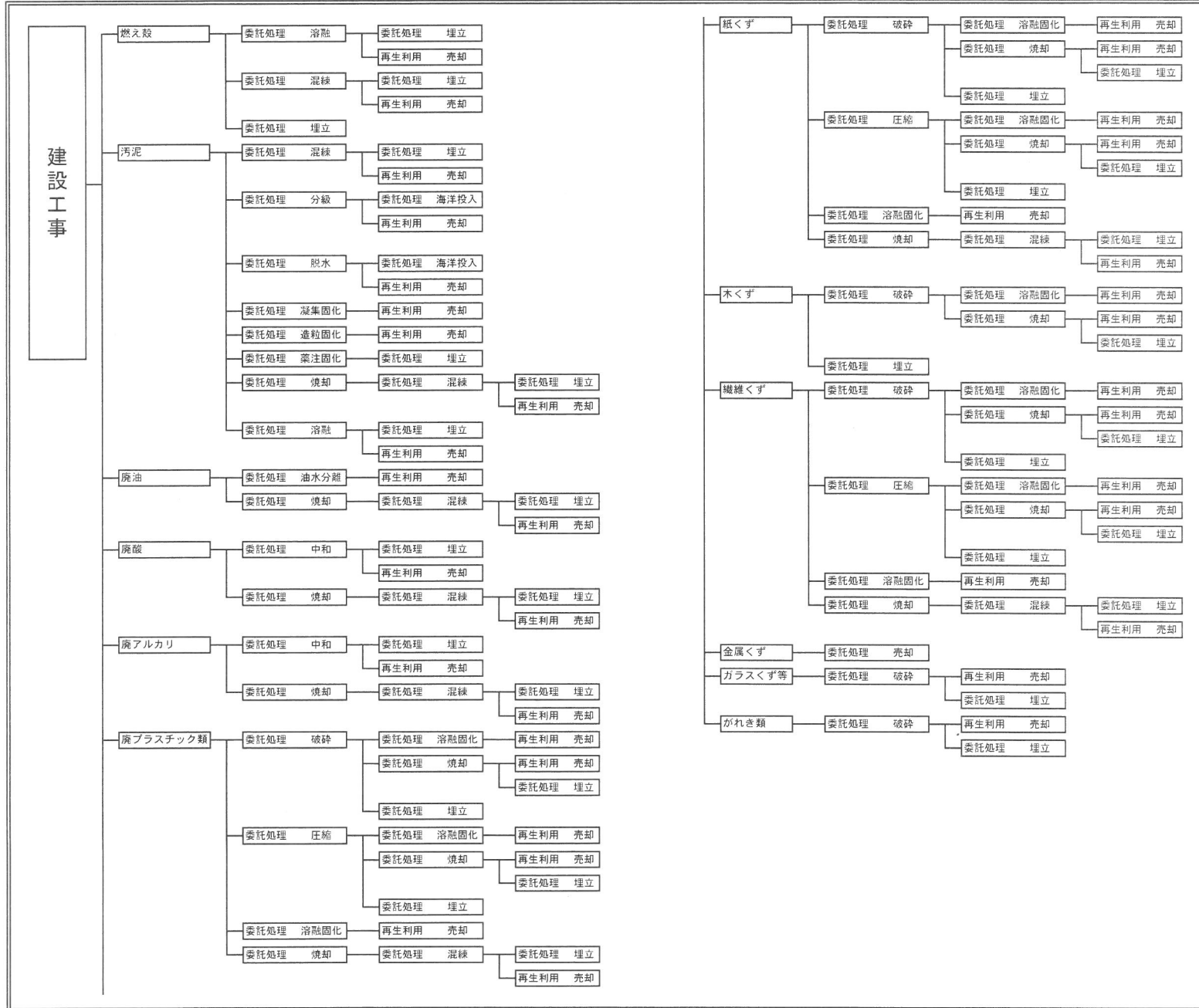
①・ 現状	【前年度（令和4年度）実績】（別紙③のとおり）		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組) 委託処理業者に対し減量化、再資源化率の調査を行い、処理委託業者選定時の参考にしている。		

②計画	【目標】(別紙④のとおり)	
	産業廃棄物の種類	
	全処理委託量	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t
	再生利用業者への 処理委託量	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t
	(今後実施する予定の取組) 前年度の取り組みを継続	
※事務処理欄		

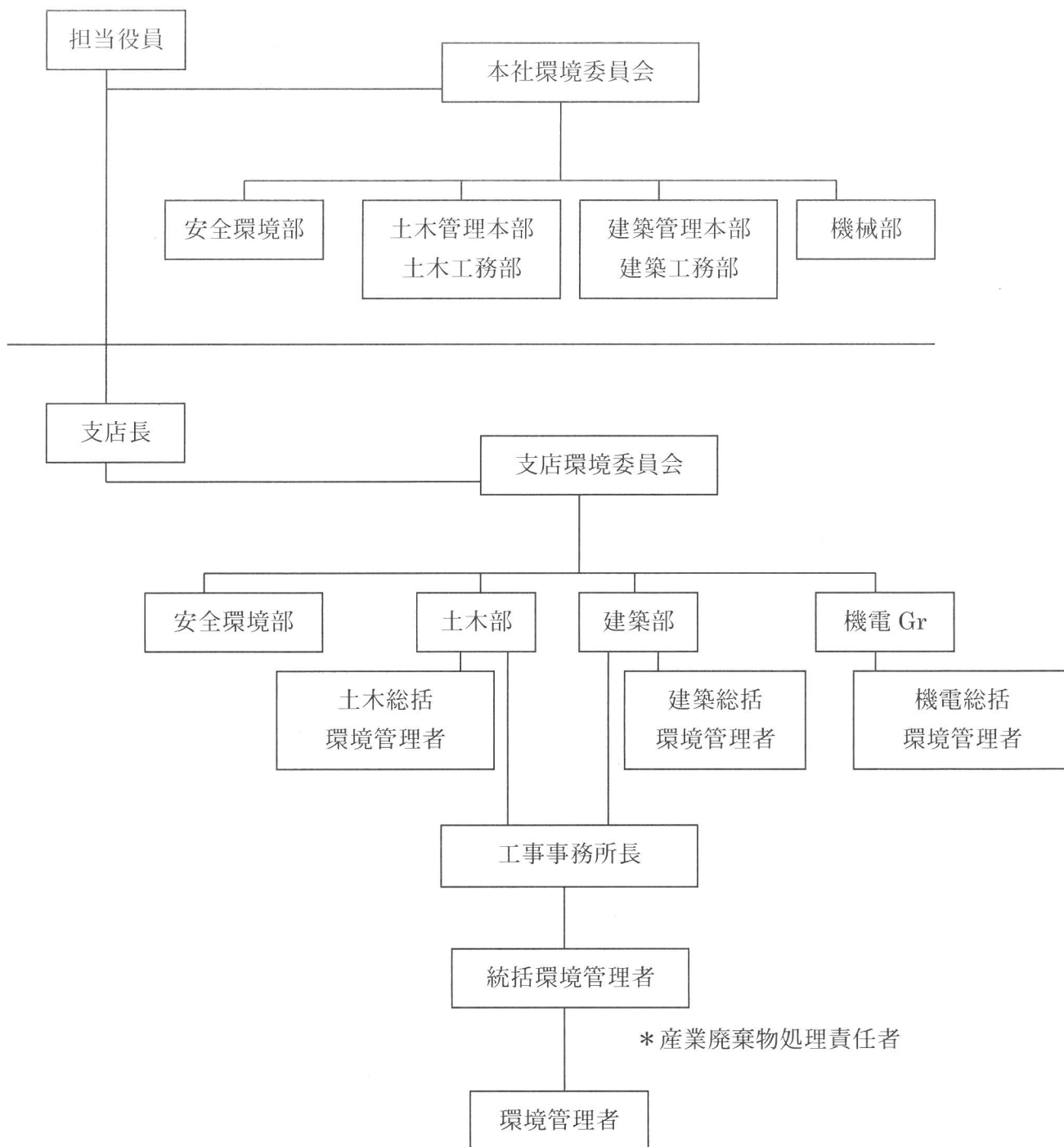
備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

当該事業場において現行行っている事業に関する事項  
産業廃棄物の一連の処理の工程



## 別紙 ② 管理体制図





産業廃棄物処理内訳【現状】

(単位:トン)

廃棄物の種類	①産業廃棄物排出量【現状】	②自己直接再生利用量【現状】	③自己直接埋立処分又は海洋投入量【現状】	④自己中間処理量(熱回収・減量)【現状】	⑤全処理委託量【現状】	⑤-1優良認定処理業者への処理委託量【現状】	⑤-2再生利用業者への処理委託量【現状】	⑤-3認定熱回収業者への処理委託量【現状】	⑤-4認定熱回収業者以外の熱回収業者への処理委託量【現状】
がれき類	1,511.0	0	0	0	1,511.0	5.0	1219.5	0	0
ガラス陶磁器くず	14.4	0	0	0	14.4	9.0	5.0	0	0
廃プラスチック類	3.0	0	0	0	3.0	1.5	0.2	0	0
木くず	11.2	0	0	0	11.2	0.0	12.2	0	0
混合廃棄物	5.6	0	0	0	5.6	0.0	5.6	0	0
合計	1,545.2	0	0	0	1,545.2	15.5	1,242.5	0	0

産業廃棄物処理計画内訳【計画】

(単位:トン)

廃棄物の種類	①産業廃棄物排出量【目標】	②自己直接再生利用量【目標】	③自己直接埋立処分又は海洋投入量【目標】	④自己中間処理量(熱回収・減量)【目標】	⑤全処理委託量【目標】	⑤-1優良認定処理業者への処理委託量【目標】	⑤-2再生利用業者への処理委託量【目標】	⑤-3認定熱回収業者への処理委託量【目標】	⑤-4認定熱回収業者以外の熱回収業者への処理委託量【目標】
がれき類	1,360	0	0	0	1,360	1,360	1,360	0	0
ガラス陶磁器くず	13	0	0	0	13	13	13	0	0
廃プラスチック類	3	0	0	0	3	3	2	0	0
木くず	10	0	0	0	10	10	5	0	0
混合廃棄物	5	0	0	0	5	0	5	0	0
合計	1,391	0	0	0	1,391	1,386	1,385	0	0